



胸元にネックレスを！

5月×日

学校から帰ると小さな箱の入った封筒が来ていた。差出人を見ると、「は」さんだった。てことはもしや？ 箱を開けてみると、小さなクローバーの形をしたネックレスが入っていた＼(^o^)／。

4月8日のブログ（タイトルは「今年の抱負」）に「今年はネックレスをつけるぞ！」と書いたら「は」さんが「あらすてき♪どんなネックレスがお好みなのかしら～？ プレゼントしますわ☆」とコメントしてくれていたけど、まさか本当にプレゼントしてくれるとは。うれしいなあ…。

* * *

今年度のわたしの抱負は、日記に書いたとおり「ネックレスをつける」です。考えてみると、情けないぐらいしたいしたことがないですね。

実は、わたしは職場ではあらたまつてのカミングアウトはしていません。メイクもしていませんし、服装はレディスではあるもののスカートなんてとんでもないです。同僚の中には「スカート、はきたかったらはいたらええやん」と言ってくれる人もいます。ある生徒は「せっかく女になつたんやし、メイクせんともつたいないで」と言ってくれました（笑）。でも、「もしも」のことを考えて、無理はしないことにしています。それでも、職場でのトランスを実現するために、ほんとうに小さなステップを少しづつ踏んできました。そして今もステップを踏んでいる最中です。

トランスをはじめた頃は、一刻も早く「自分のありたい姿」になりたいと思いました。無理なステップを踏んだこともあります。そんなとき、まわりの人たちは一見理解をしてくれているように見えるけど、実はドン引き。そんな失敗を散々してきました。

最近わたしは、「トランス」という作業は船の操縦のようなものじゃないかなあと思うようになりました。船の舵は急には切れません。舵を急に切ると、それはブレーキにしかなりません。それどころか、大きくバランスを崩してしまい、最悪

の場合、転覆してしまう可能性すらあります。

大学生の頃、子ども対象のキャンプ場で管理スタッフのボランティアをしていました。そこで、小学生が10人ほどで漕ぐ船のスキッパーをしたことがあります。子ども達が漕いでいる最中は舵はまっすぐにします。舵を切るのは、子ども達がオールをあげて惰性で動いている時です。そうしないと、子ども達がすぐに疲れてしまいます。でも、そうやって、舵を切ったりもどしたりしながらも、必ず行く方向は見定めています。潮の流れや風を勘定に入れながら、ゆっくりと行きたい方向に船を導いていきます。そうすれば、いずれ必ず自分の行きたい場所に船はたどりついでくれます。おもしろいことに、一度航路を変えた船はそう簡単に元にもどったりしません。ですから、方向が変わりはじめると、そんなに無理をしなくてよくなります。

自分がトランスジェンダーであると知ってから、もう10年以上たちます。最近ようやく航路を変えることができてきたかなあと思います。そのせいか、職場の中にも職場の外にもわたしを「わたし」として受けとめてくれる人が増えてきました。先日、ある1年生が「中学校の先生が『高校に行つたら土肥っていう先生がおるしな。ええ先生やで』って言つてはつたし」と声をかけてくれました。はたしてわたしが「ええ先生」かどうかははなはだ疑問ではありますが…。でも、わたしを見てクスクス笑う1年生がいる中で、その生徒がなぜまっすぐな視線でわたしの授業を受けてくれているのか、その理由がわかりました。

ところでネックレスの反応。

ある日、パーカーのファスナーを上まであげていたら「せっかくのネックレス、見えへんで」とか言われてしまいました。最近胸元にちょっと注意を払っています。ただ、慣れないせいか肩が凝つて…。やっぱりまだまだ無理をしているのかもしれませんね（笑）。

（土肥いつき 高校教員）